

毎月10日はこんぴら詣りへ「こんぴら^{じゅうじょう}十帖」がスタート

人気書道家、一流シェフなどが協力してイベントを企画、琴平の街に賑わいを再び

琴平町観光協会(会長:漆原康博)は、同町内外の有志の協力を得て、金刀比羅宮への参拝客並びに琴平町への観光客を継続的に誘致するため、新たな月例イベント「こんぴら十帖(※)」を実施いたします。金刀比羅宮の参道周辺で毎月行われる「金毘羅の縁日」に因んで、11月10日から毎月10日に、町内のうどん店などが、その日限りの趣向を凝らした「こんぴら十帖うどん」を提供するなどして、「毎月10日はこんぴらさんへお参りに行く」ことを慣例化していきたい考えです。

※十帖は、源氏物語の「宇治十帖」に出てくる「10の物語」から。琴平に来れば様々な物語を感じられ、再訪するたびに新たな物語が始まるという意味で名付けました。

■金毘羅さんに年に何度も足を運ぶ貴重な「リピーター」を増やす

金刀比羅宮はその昔、信仰のあつた人々から「一生に一度はこんぴらさん」と言われるほどブームとなり、本宮の境内や縁日の門前町は年中大勢の参拝客で賑わったといえます。ところが、コロナ禍前に年間250万人あった観光客が去年は100万人を割り込むという状況に陥っています。そこで今後は「一生に一度訪れる場所」ではなく、金刀比羅宮への参拝と縁日の催しを楽しみに、一年に何度も足を運んでもらう「リピーター」を増やしていくことが観光振興のカギを握ると考え、「こんぴら十帖」の企画がスタートしました。

■「食とアート」で琴平町をリ・デザイン

「こんぴら十帖」は、町内の有志が発案し琴平町観光協会とともに推進するプロジェクト。金刀比羅宮の毎月10日の縁日を新たな月例イベントとしてデザインしなおし、全国に情報発信していきます。金刀比羅宮への参拝の趣旨やイメージはそのままに、中高年の方だけでなく若い世代にも刺さるコンセプトとして、「食とアート」の二つを柱に取り組みます。

こん
ぴ
ら
十
帖



【問い合わせ】 こんぴら十帖事務局 担当:琴平バス(株) 楠木泰二郎

☎090-8287-8264 Mail: kusunoki@kotobus.com

➡Web <https://www.konpira10.com> ➡Twitter <https://twitter.com/konpira10/>

➡Facebook <https://www.facebook.com/konpira10/>

➡Instagram <https://www.instagram.com/konpira10/>

【食】目玉となるプロジェクトは「こんぴら十帖うどん」。毎月 10 日の縁日に合わせて、門前の飲食店などで、琴平町を中心に地元産の食材などを使った創作うどんメニューが提供され、各店で毎月 10 日限定の変わった味わいのさぬきうどんが楽しめます。

この取り組みには、地産地消による地域活性化の第一人者で山形県・庄内のイタリアンレストラン「アル・ケッチャーノ」のシェフ、奥田政行氏が協力・監修いただいています。洋食専門家ならではのレシピが提案され、これらをもとに各店が趣向を凝らした「こんぴら十帖うどん」を提供。そのほか各店でも「こんぴら十帖」に因んだオリジナルメニューを開発・販売します。

また、この取り組みがきっかけで山形県の奥田シェフの店に“うどん一番弟子”として修業した琴平町で開業準備中の HAKOBUNE ビルで料理人を務める予定の吉田智也君が、そこで覚えた技術を生かして毎月 10 日限定のイベントレストランを開催予定です。



奥田シェフ(右)と吉田君(中)

【アート】「こんぴら十帖」に先立ち、瀬戸内国際芸術祭の関連事業として現代美術作家ヤノベケンジ氏による「KOMAINU」などのアート作品を金刀比羅宮の境内などに展示(9/12～11/6)しています。

また今回、NHK 大河ドラマ「龍馬伝」の題字や日本政府のスローガンの筆文字などを手掛けた人気書家の紫舟(ししゅう)氏に「こんぴら十帖」の文字を揮毫頂きました。この文字を琴平町の染匠吉野家による伝統工芸「讃岐のり染(さぬきのりぞめ)」の技法でのぼりに仕立て、毎月 10 日には参道の各店先に並べて立てることにしています。



開催当日、参道沿いに並び立ちます

『こんぴら十帖(じゅうじょう)』の始動にあたって ～琴平町観光協会 第 6 代会長 漆原康博

2020 年初頭に発生した新型コロナウイルスは全国の観光地の猛威となり、香川県を代表する観光地・琴平にも襲い掛かりました。全国から歌舞伎ファンが訪れる恒例行事「こんぴら歌舞伎大芝居」は 4 年連続中止。人ひとり歩いていない金刀比羅宮の表参道。町を支えてきた宿泊・飲食・交通ほか多くの商店や事業者は未曾有の危機に晒されました。しかし、そんな状況にも負けじと立ち向かうのが琴平の商人魂。ピンチをチャンスに変えようと「アート」、「食」を軸に次の 10 年を担う世代が一斉に立ち上がりました。これが『こんぴら十帖』プロジェクトのはじまりです。

2022 年 11 月 10 日。いつの時代も町の象徴・ルーツである金刀比羅宮への敬意、“負けてなるものか”という決意も込め、毎月 10 日の御縁日を山上(金刀比羅宮)・山下(門前町)の両輪で盛り上げる「こんぴら十帖」をスタートします。

毎月 10 日にお越しの参詣者へのおもてなしとして、「こんぴら十帖うどん」「こんぴら十帖饅頭」「こんぴら十帖餅」「こんぴら十帖珈琲」「こんぴら十帖パフェ」など、季節替わりの限定メニューを用意してお迎えします。

参詣者や町民は勿論、これから出会う旅人や芸術家、新たに出店する企業、未来を担う子供たち。町に係わる誰もが笑顔となり、健やかに、今よりもっと楽しい町になっていることを想像し、ここから 10 年の物語を編んでまいります。

紫舟(シシュー) 書家／芸術家／大阪芸術大学教授

「書」を平面や伝統文化の制約から解放した『三次元の書』をはじめ、書が絵画と融合した『書画』、象形文字が再び命を宿し動き始める『メディアアート』など、伝統文化を新しい斬り口で再構築した書の作品は、唯一無二の現代アートと言われている。

フランス・ルーヴル美術館地下会場で金賞を受賞するなど、日本だけでなく世界でも活躍。

天皇后両陛下(現上皇皇后両陛下)が『紫舟』展に行幸啓された。

東京オリンピックの事務局や NHK 大河ドラマ「龍馬伝」の題字も手掛ける。

<https://www.e-sisyu.com/>

Facebook / Twitter / Instagram / Youtube:「sisyu8」



奥田政行 イタリア料理人/酒田調理師専門学校食材論講師/ 山形県庄内総合支庁『食の都庄内』親善大使

1969 年、山形県鶴岡市生まれ。新潟と山形との県境の町で育つ。鶴岡東高校を卒業後、東京でイタリアン、フレンチ、フランス菓子、ジェラート作りの修業に勤しむ。

27 歳で鶴岡ワシントンホテルの料理長に就任。2000 年「地場イタリアン」を掲げる「アル・ケッチャーノ」を鶴岡市に開店。2004 年山形県庄内総合支庁「食の都庄内」親善大使就任。イタリア・スローフード協会国際本部「テッラ・マードレ 2006」で「世界の料理人 1000 人」に選出。2009 年東京・銀座の「ヤマガタ・サンダンデロ」をプロデュース。「FOOD ACTION NIPPON アワード 2009」コミュニケーション・啓発部門優秀賞受賞。

2010 年 5 月第 1 回「辻静雄食文化賞」を受賞。

